

肺癌術後地域連携パスの運用を  
いかにサポートするか  
～医師事務作業補助者の立場から



独立行政法人国立病院機構四国がんセンター

粟木瑞穂、浅川愛美、南原寿枝美、  
船田千秋、上野剛、末久弘、野上尚之、澤田茂樹、山下素弘

## 背景と目的

### 都道府県がん診療連携拠点病院

指定条件：5大がんの地域連携クリティカルパスの整備

平成24年度～ 呼吸器外科  
肺がん術後連携パス 稼働

MC（メディカルクラーク）が外来業務の中  
でできるサポートを検討

四国がんセンターでの

## 連携パス運用の目的

- 病院機能の効率化
- 患者の利便性向上
- がん診療連携の強化



## 肺がん手術後連携パス

手術日 年 月 日

診療場所	拠点病院	かかりつけ医	拠点病院							
			かかりつけ医	拠点病院	かかりつけ医					
経過	術後1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月
月日	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
診察	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
血液検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
腫瘍マーカー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
画像検査	胸部X線	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	胸部CT	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	その他									
説明	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

連携室から依頼されている情報共有のタイミング

診療情報提供書作成などに時間がかかり、診療時間が圧迫される



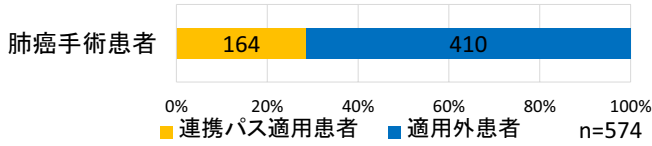
効率化のためにMCがどれだけ医師をサポートできるかを検討した

## 方法1

- ①肺がん術後連携パスの稼働状況の調査
- ②当院医師に「連携パスに関するアンケート」実施
- ③診療情報提供書の作成数と作成時間の調査

結果1

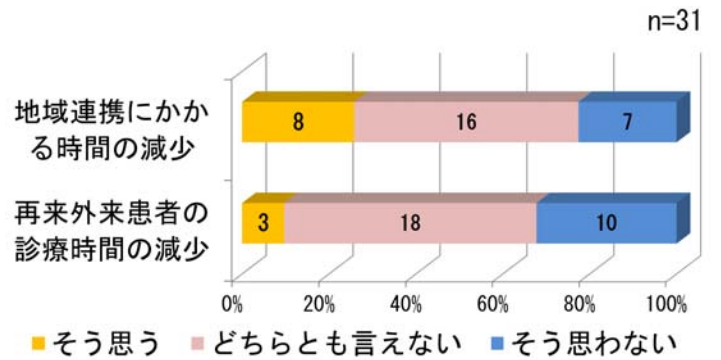
①肺癌術後連携パスの稼働状況調査 (H24~26年度(6月末))



術後フォローアップ方法		人数
経過観察		125
術後補助化学療法	UFT補助化学療法 (標準治療)	16
	UFT補助化学療法 (臨床試験)	3
	TS-1補助化学療法 (臨床試験)	7
	TS-1補助化学療法 (本人希望)	2
	CDDP+VNR 4クールDiv	11

結果1

②当院医師への「地域連携パスに関するアンケート」



結果1

③患者1人当りの診療情報提供書の作成数 (パス終了まで) と作成時間

● 連携なし：2通



12通増加

■ パス使用：14通

※1通当りの作成時間：平均約8分

方法2 地域連携関連の増加した業務の整理

- ①「癌治療連携指導書 (報告書)」の管理
- ② 診療情報提供書の作成



医師の負担増加

方法2 ①「癌治療連携指導書」の管理の流れ

診療場所	拠点病院	かかりつけ医	拠点病院		かかりつけ医		拠点病院		かかりつけ医	
			4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	
経過	術後1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月
月日										



・患者情報確認、スキャンとカルテ記載  
・必要な情報を医師に報告

FAX

FAX



方法2 ①「癌治療連携指導書」の管理の流れ

診療場所	拠点病院	かかりつけ医	拠点病院		かかりつけ医		拠点病院		かかりつけ医	
			4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	
経過	術後1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月
月日										



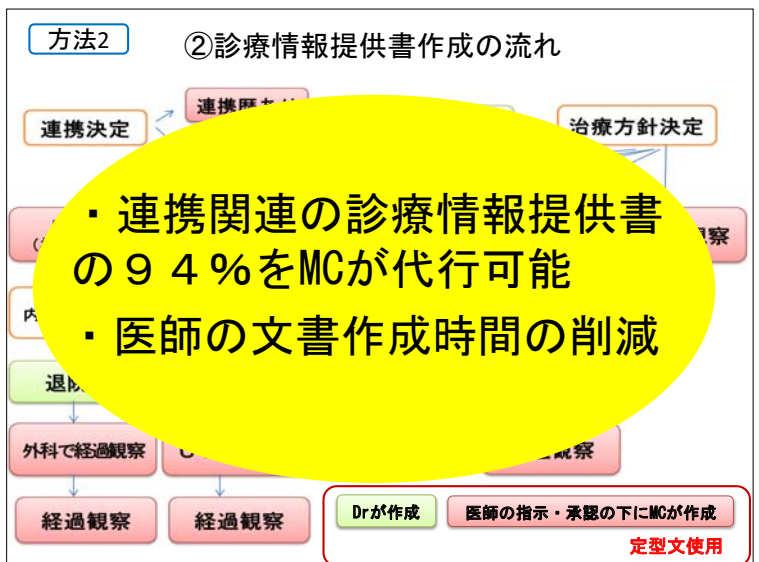
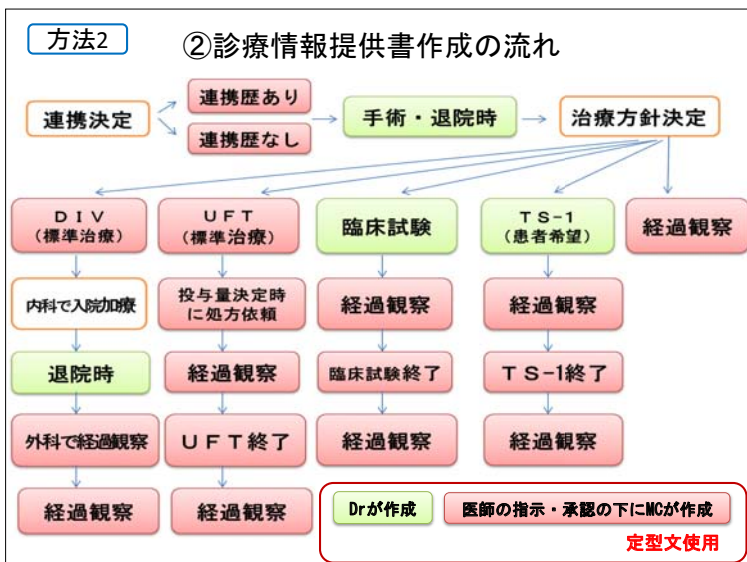
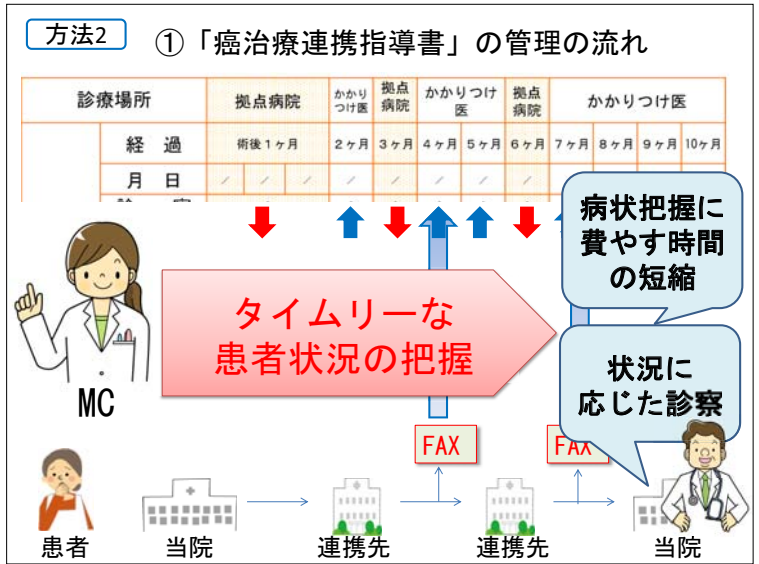
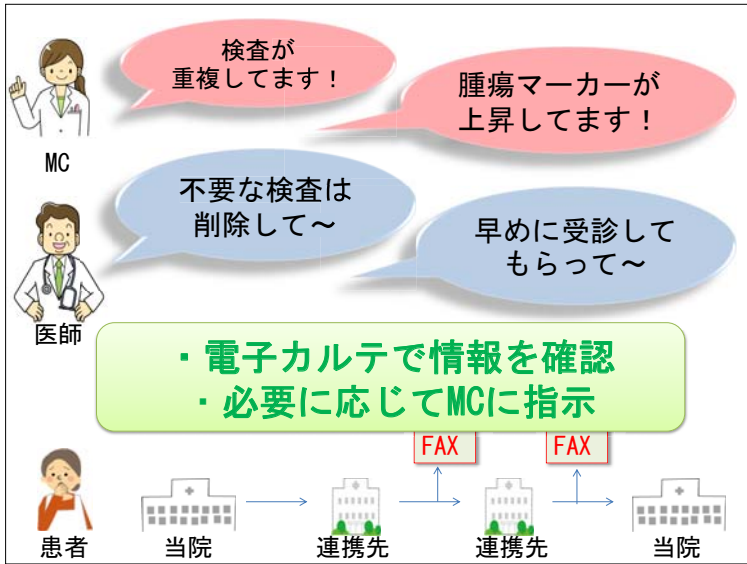
検査が重複してます！

腫瘍マーカーが上昇してます！

FAX

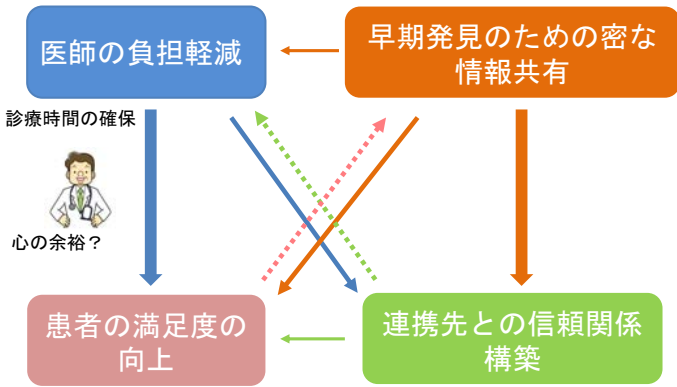
FAX





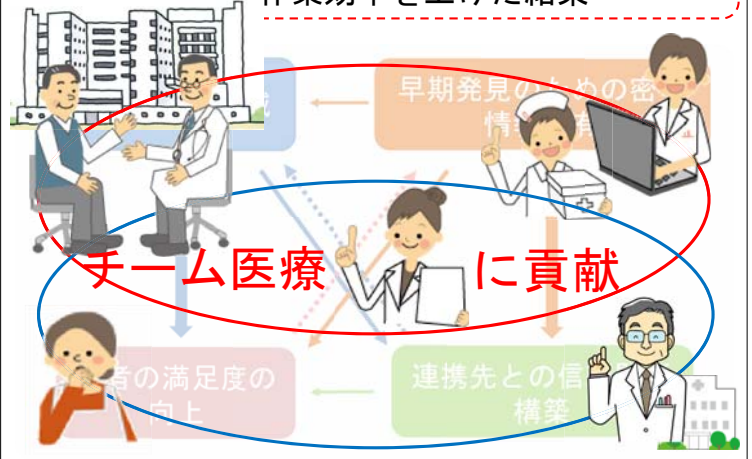
考察

MGが外来業務の中で医師をサポートし  
作業効率を上げた結果…



考察

MGが外来業務の中で医師をサポートし  
作業効率を上げた結果…



まとめ

医療連携（チーム医療）の  
質の向上と円滑化を進める上で  
医師事務作業補助者の役割はさらに  
増すと考えられる

